

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02205

研究課題名(和文) 章学誠目録学の射程

研究課題名(英文) Zhang Xuecheng's Range of Vision on Chinese Bibliography

研究代表者

古勝 隆一 (Kogachi, Ryuichi)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：40303903

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代以降の中国學術史に大きな影響を与えた、清の学者、章学誠について、目録学の観点から解明しようとするものであり、清朝の學術の様相を解明すべく、章学誠の著書『文史通義』を目録学の観点から研究した。その成果は、以下において公開した。「『文史通義』内篇二訳注(1)」、『東方学報』九二冊、二〇一七年一二月、「『文史通義』内篇二訳注(2)」、『東方学報』九三冊、二〇一八年一二月、「『文史通義』内篇三訳注」、『東方学報』九五冊、二〇二〇年一二月、「『文史通義』内篇四訳注」、『東方学報』九六冊、二〇二一年一二月、「『文史通義』内篇五訳注」、『東方学報』九七冊、二〇二二年一二月。

研究成果の学術的意義や社会的意義

章学誠『文史通義』は、中国清代の學術著作のなかにおいて、異彩を放つ名著とされ、内藤湖南によって顕彰されたにもかかわらず、こんにちまで、全訳されることがなかった。本研究計画では、同書を全訳し、詳しい訳注を完成させることができた。このことの意義は、中国學術のみならず、全世界の學術史に関心を持つすべての日本語読者にとって有意義であると考えられる。さらに、本研究計画では、章学誠に関する様々な學術発表もおこなっており、今後、論文集として刊行されることが期待される。

研究成果の概要(英文)：This study is an attempt to elucidate from the perspective of bibliography the Qing scholar Zhang Xuecheng, who had a great influence on the history of Chinese scholarship in the modern era and later, and to elucidate aspects of Qing scholarship. The results are published in the journal "Toho Gakuho"(Kyoto) as a series(Vol. 92, 93, 95, 96, 97).

研究分野：中国學術史研究

キーワード：章学誠 目録学 清代學術 中国學術史

1. 研究開始当初の背景

本研究は、近代以降の中国學術史に大きな影響を与えた、清の学者、章学誠（1738-1802）について、目録学の観点から解明しようとするものである。章学誠という学者の重要性については、我が国においては内藤湖南（1866-1934）が、そして中国においては胡適（1891-1962）がそれぞれ『章实斋先生年譜』と題する年譜を1930年代に世に問うたことから本格的な研究が開始された。その後、歴史学の分野で研究が大いに蓄積されたが、章学誠の根幹部分にも関わる、文献学ないし目録学に関しては、相対的に研究の蓄積が手薄である。章学誠の目録学に関する研究は、これまで主に同人の『校讐通義』という比較的簡潔な著作に即して研究されてきたが、より重要な主著、『文史通義』から論ずる必要を感じたことが、この研究計画にいたる背景として存在する。つまり、『文史通義』の全体像が明らかにならない限り、章学誠の文献学ないし目録学を解明することはできないと考え、この研究計画を構想したのである。さらに『文史通義』は、日本において明治時代以来重視されてきたとはいえ、近年は研究が少なくなっており、またこれまで全面的な訳注が作られてこなかったという経緯があり、今回、その訳注作成に挑戦した次第である。

2. 研究の目的

清朝の學術の様相を解明するための一環として、清朝の学者のなかでは主流派とは言い難いものの、独自の存在感を示す学者が章学誠であるが、本研究計画においては、その章学誠の主著『文史通義』を、目録学の観点から研究する。そのための基礎作業として、同書内篇（五卷）のすべてに訳注を施して、その内容の全体像を把握することを目標とする。さらにそのうえで、『文史通義』と『校讐通義』を会通させて、章学誠目録学の全体を論ずるものである。

本研究計画は、第一に、我が国における章学誠『文史通義』に関する研究の更新をはかることを目的とするものである。第二に、近代以降にも大きな影響を与え続けている章学誠の目録学について、新たな認識を打ちたてることが、その目的である。

3. 研究の方法

本研究計画は、まず何よりも、これまで待望されつつも完遂されることのなかった、『文史通義』の精密な日本語訳注を作成することから始まる。『文史通義』の版本系統は比較的複雑であるが、この研究計画においては、大梁本系統の「内篇」部分（全五卷）を対象として、その全体について、日本語訳と詳細な注釈をつけ、研究会の席において検討を加えた。文献研究において、何より重んぜられるべきは、内容の精密な読解であるが、その最も手堅い方法は、複数の研究者が集う研究会において、訳文ならびに注釈の確認をおこない、多角的な検討を加えることである。本研究計画では、研究代表者、研究分担者を中心として、それ以外にもさまざまな学術的方法論による訓練を受けてきた参加者を募り、ともに研究会を重ねてきた。

本研究の目的は、『文史通義』の検討を通じて、章学誠の目録学を解明することであり、この点についても、具体的な議論を重ね、章氏の目録学が、遠くは周代から、近くは清代までを視野に入れ、多くの論点を設けて論じた意義深いものであることを解明することができた。

4. 研究成果

本研究は、近代以降の中国學術史に大きな影響を与えた、清の学者、章学誠について、目録学の観点から解明しようとするものであり、清朝の學術の様相を解明すべく、章学誠の主著『文史通義』を目録学の観点から研究した。その成果は、以下の『文史通義』訳注として公開した。「『文史通義』内篇二訳注(1)」、『東方学報』九二冊、二〇一七年一二月、「『文史通義』内篇二訳注(2)」、『東方学報』九三冊、二〇一八年一二月、「『文史通義』内篇三訳注」、『東方学報』九五冊、二〇二〇年一二月、「『文史通義』内篇四訳注」、『東方学報』九六冊、二〇二一年一二月、「『文史通義』内篇五訳注」、『東方学報』九七冊、二〇二二年一二月。以上の成果により、『文史通義』内篇について、本邦初の訳注計画を完結することができた。

この以外に、二〇二二年七月に、京都大学人文科学研究所において、「近代日本・中国における章学誠研究熱の形成とそのインパクト 内藤湖南、胡適および20世紀中国学の諸相」と題する国際研究集会（京都大学人文科学研究所・関西大学東西学術研究所の主催）を開催し、さらに二〇二三年三月、同じく京都大学人文科学研究所において、「中国近代における経書の受容と変

容」と題する国際研究集会（京都大学人文科学研究所「清代～近代における経学の断絶と連続」班との共催）を開催し、研究発表の機会を作った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 「清代～近代における經學の斷絶と繼續」研究班、福谷 彬、新田 元規、山口 智弘、竹元 規人、古勝 隆一、渡邊 大、内山 直樹、藤井 律之、田尻 健太、重田 みち、永田 知之 | 4. 巻 97 |
| 2. 論文標題 『文史通義』内篇五譯注 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 東方學報 | 6. 最初と最後の頁 235～373 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/281936 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 田尻健太、古勝隆一 | 4. 巻 43 |
| 2. 論文標題 段玉裁『古文尚書撰異』序訳注（二） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 中国思想史研究 | 6. 最初と最後の頁 91～123 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 「清代～近代における經學の斷絶と連續」研究班、山口 智弘、臧 魯寧、内山 直樹、小島 明子、成田 健太郎、道坂 昭廣、永田 知之、王 歡、王孫 涵之、竹元 規人、古勝 隆一、福谷 彬、陳 佑真、白須 裕之、渡邊 大、藤井 律之、重田 みち | 4. 巻 96 |
| 2. 論文標題 『文史通義』内篇四譯注 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 東方學報 | 6. 最初と最後の頁 117～269 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/269164 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 古勝隆一、小島明子、内山直樹他 | 4. 巻 95 |
| 2. 論文標題 『文史通義』内篇三譯注 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『東方學報』 | 6. 最初と最後の頁 227-374 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 田尻健太、古勝隆一 | 4. 巻 42 |
| 2. 論文標題 段玉裁「古文尚書撰異序」譯注」(一) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『中国思想史研究』 | 6. 最初と最後の頁 91-123 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 古勝隆一 | 4. 巻 95 |
| 2. 論文標題 「衰世の菩薩戒弟子皇帝：南朝陳における王權と佛教」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『東方學報』 | 6. 最初と最後の頁 51-79 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 古勝隆一 | 4. 巻 94 |
| 2. 論文標題 魏晉『莊子』注釈史における郭象の位置 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 東方学報 九四冊 十二月 | 6. 最初と最後の頁 67-87 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 『文史通義』研究班、古勝隆一、内山直樹、竹元規人 | 4. 巻 93 |
| 2. 論文標題 『文史通義』内篇二訳注(2) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 東方學報 | 6. 最初と最後の頁 67-119 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/241061 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 『文史通義』研究班 | 4. 巻 92 |
| 2. 論文標題 『文史通義』内篇二訳注(1) | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 『東方学報』 | 6. 最初と最後の頁 253-311 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 古勝隆一 | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 告朔之食気羊疏札記 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 能仁学報 | 6. 最初と最後の頁 123-138 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

[学会発表] 計5件(うち招待講演 3件/うち国際学会 4件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 古勝隆一 |
| 2. 発表標題 劉炫《孝經聖治章》講義 |
| 3. 学会等名 第二屆「十三經注疏與經學文獻研究國際學術研討會」(招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 古勝隆一 |
| 2. 発表標題 上党学者与五胡崇儒 |
| 3. 学会等名 大夏与北魏及統万城考古国際學術論壇(国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 古勝隆一 |
| 2. 発表標題 《論語》郷党“立不中門”皇疏考正 |
| 3. 学会等名 単周堯教授七秩華誕國際學術研討会（國際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 古勝隆一 |
| 2. 発表標題 魏晉『莊子』注釈史における郭象の位置 |
| 3. 学会等名 東方学会（招待講演）（國際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 古勝隆一 |
| 2. 発表標題 首屆漢唐注疏思想沙龍 |
| 3. 学会等名 郭象在魏晉《莊子》注釈史上的位置（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

〔圖書〕 計7件

| | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 著者名 古勝 隆一 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 法藏館 | 5. 総ページ数 406 |
| 3. 書名 中国中古の學術と社会 | |

| | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 著者名 古勝隆一 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 中国社会科学文献出版社 | 5. 総ページ数 248 |
| 3. 書名 漢唐注疏写本研究 | |

| | |
|--------------------------------|------------------|
| 1. 著者名 李雄溪、招祥麒、郭鵬飛、許子濱 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 中華書局（香港） | 5. 総ページ数 1595 |
| 3. 書名 《單周堯教授七秩華誕國際學術研討會論文集》 | |

| | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 著者名 劉躍進、徐興無 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 鳳凰出版社 | 5. 総ページ数 435 |
| 3. 書名 漢趙劉淵家屬的儒學背景 | |

| | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 著者名 古勝隆一 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 臨川書店 | 5. 総ページ数 268 |
| 3. 書名 目録学の誕生 | |

| | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 著者名 井筒 俊彦、古勝 隆一 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 慶應義塾大学出版会 | 5. 総ページ数 272 |
| 3. 書名 老子道德経 | |

| | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 著者名 窪添慶文 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 勉誠出版 | 5. 総ページ数 304 |
| 3. 書名 魏晋南北朝史のいま | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-----------------------------------|----|
| 研究分担者 | 内山 直樹 (Uchiyama Naoki) (20449284) | 千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501) | |
| 研究分担者 | 竹元 規人 (Takemoto Norihito) (80452704) | 福岡教育大学・教育学部・准教授 (17101) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

| | |
|--|--------------------|
| 国際研究集会 第三屆儒家經典的跨域傳釋國際學術研討會 | 開催年 2020年～2020年 |
| 国際研究集会 近代日本・中国における章学誠研究熱の形成とそのインパクト | 開催年 2022年～2022年 |

| | |
|----------------------------|--------------------|
| 国際研究集会 中国近代における経書の受容と変容 | 開催年 2023年～2023年 |
|----------------------------|--------------------|

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|